

ふるさとの

作詞 石川啄木

ふるさとの山に向ひて
言ふことなし
ふるさとの山はありがたきかな

岩手青年の歌

作詞 不詳

空がよぶ空がよぶ
雲のあちらの青空が
朝だ門出だはた風だ
さびた鉄鎖は切れたのだ
行かうよ岩手の行かうよ青年

おぼろ夜の

作詞 近藤義次

おぼろ夜の風ゆるく
人もなし花の影
響きたる笛の音は
若人の秘め歌か

岩手中・高創立二十五年祝典歌

作詞 水原一

此の日此処に我等集ひ
秋空の澄めるもと 限りなき望み溢れて
我が学び舎を歌はむ

星霜二十有五年 みちのくに春めぐりければ
岩が根も貫く力に匂い出ずる櫻花
その花の心からなる学のあこがれ

雲の影落つる窓べ
岩手峰遠く青く 北上川渦巻き流る
その山もその水も 伸び行く我等を守る

今し日本の朝ぼらけ
此の庭に跡を残しつ 先人の血汐受けつぎ
高なる胸誇らかに いざ若人我等手を取り立ちて
母校我が母校 その栄え壽ぎ
その名讃へむ

岩手高女寮歌

作詞 小田島孤舟

お城の跡の片ほどり
はるか桜の花匂い
秋は紅葉の色映えて
窓辺さやけしわが寮舎

盛岡一高定時制生徒会歌

作詞 水原一

1. 岩手峰 むらさきの
西にうつらう 茜雲
里は上田の 松蔭に
校舎は今し 暮れむとす
2. かへげよや ともしびを
勤めに過ぎし 昼の日を
かへり見る間も 惜しみつゝ
一夜を燃えむ 学の道
3. 語らまじ 我が友よ
へだてもあらぬ 同じ窓
新たなる世を 思う時
湧きては止まぬ 遠き夢
4. 行く家路 暗くとも
働き学ぶ 喜びは
北に輝く 星影を
若き生命の 歌い種

盛岡女子高校歌 作詞 水原一

(二部合唱曲として)(久保学園高)

1. その名も清き 高松の池
岩手の峰の 紫紺を仰ぎ
木々の嵐を 歌声と聞き
校舎は立てり 水際の岡べ
よき技と よき心
いざ いざ 培はむ 培はむ
2. 衣縫う針に 光は満ちて
春は桜の 紅淡く
書読む窓に 白雲流れ
秋は端山の 芒の穂波
よき技と よき心
いざ いざ 育くまむ 育くまむ
3. 若き望の 溢るる胸は
深き夏夜の 真砂の星も
凍れる冬の 雲捲く風も
学びに進む 励しと見む
よき技と よき心
いざ いざ 培はむ 培はむ
4. 女と生ひし 誇は高く
師の御訓へに 思い離たじ
固き契りの 友垣連れて
今ぞ開かむ 新しき国
よき技と よき心
いざ いざ 育くまむ 育くまむ